

大学院入学式祝辞

平成二十八年 度

日本体育大学大学院体育科学研究科、博士前期課程 修士課程）
及び博士後期課程にご入学の皆さん！ おめでとうございます。心より
ご祝意申し上げます。

皆さんは、体育及びスポーツに関する研究を究め、新たな高見を目指
してこの分野の発展に寄与しようと、高い志を抱いて本学大学院への進
学を選択したことと思います。本学は皆さんの志と熱意に敬意を表しつ
つその青雲の志をしっかりと受け止めて、研究環境を可能な限り整備す
ることをお約束いたします。

グローバルゼーションという言葉をよく耳にするようになりました。こ
の言葉はありとあらゆる分野で使われるようになっていきます。大学及び
大学院などの教育 研究機関においても例外ではありません。これによつ
て伝統的な研究教育の姿は大きく変貌させられ、大学院生をはじめと
する研究者たちは国境を越えて異動するようになり、海外の大学間で
は対等互恵の関係を維持しつつ、研究者同士の往来が日常化するよう
にもなりました。これによつて大学院教育の在り方も変つてまいりまし
た。

従来は指導教員と大学院学生との学問共同体としての大学院組織を守ることに「学問の自由」を担保することであるとされてきました。その大学院は学位授与機関として学位授与権を独占してもきました。しかし、そのような大学院は、いまでは国家を超えた研究活動が推進されるようになったことにより、グローバルゼーションによつてその理念や制度の根幹が揺さぶられるようになってきているといつてもよいでしょう。

国は、現在、大学院教育を国家的ビジネスの対象とみなして国家を超えて研究協力ができる大学及び大学院へと改革させようとしています。われわれの学問領域もグローバルゼーションの大きな波に乗り遅れないようにしなければなりません。積極的に海外に出でて学术交流に努め、大きく羽ばたくべく精進、努力を重ねてくれる大学院生を輩出することが、大学の大きな課題となってきました。それだけに皆さんに期待するところが大きいといわねばなりません。

いつまでもありませんが、科学的研究だけがグローバル化しているわけではありません。スポーツにおいても同様ですし、そのスポーツを対象にした科学的研究においても同様です。二〇二〇年に東京へオリンピックとパラリンピックがやってきました。開催都市に所在する本学は全学を上

げてこの世界的祝祭に積極的に協力してまいります。すでに、本学は各方面からこの課題に取り組んでいるところですが、例えば、昨年度から総合スポーツ科学研究センターを中心にして「アスリートサポートシステム」を編成して、その活動の基本計画にそつて活動をしております。また、二〇二〇年にオリンピック・パラリンピックを迎えるにあつて現スポーツ庁が「スポーツアカデミー形成支援事業」を本学に委託したのを受け、平成二十六年より国際的に活躍できるコーチ育成者（スーパーコーチャー）の養成を目的にして「NSSU Coach Developer Academy」を開設し、国際社会で活躍できるスーパーコーチャー育成のためのプログラムを展開してきました。国際シンポジウムも開催してきました。この委託事業をオリンピックの遺産とするために、大学院体育科学研究科に新たに「スーパーコーチャー養成のための「コーチング科学専攻」を立ち上げることを計画しています。

皆さんには、国際的なフィールドで活きた研究を行うためにも、本学が試みる活動に積極的に参加することを期待します。このように皆さんには様々な形で協力願うことになりましたが、先ずは本学出身の選手に対するサポート要員になることを希望いたします。技術の問題、心の問題、栄養の問題、トレーニングの問題などサポート要員たる研究者の皆さんには課題は山積していますが、皆さんにはマルチサポート要員にな

るための力量を磨くことを期待いたします。私たちの学問は現場と密接に関わつて初めて意味を持つことは少なくありません。研究のための研究に墮することなく、実益に叶った研究成果をものにして欲しいと思います。

ここで研究意欲に充ち満ちている皆さんに、水をさすようで恐縮ですが、注意を喚起させていただきます。先年、世紀の発見ではないかと注目されたスタッフSTAP細胞研究においてデータの改ざんなど、物議を醸しました。先頃、この問題の幕引きがなされたところですが、これを本件に関する問題であるとして閉じ込めておくべきではありません。

窃盗は社会的には犯罪ですが、知的財産の窃盗もまた犯罪であるという認識をもたねばなりません。日本有数の研究大学と評価の高い大学でも、学位の取り消しが行われました。思わぬところで盗作してしまっていることもあります。そこで、本学は、無断に他人の論文を盗用しないように、学部对学生に対して「日体生のためのアカデミックライティング」と題する冊子を刊行し、研究者の倫理についても学んでもらっています。この仕事は総合スポーツ科学研究センターに依頼して実現したものです。が、今年度こそ、大変な作業であることを承知の上で、学術研究のためのアカデミックライティングをまとめて頂きたいと希がっています。

もあれ、知的財産を蓄えるための手法を、指導教員の先生からしつかり学ぶことを期待します。

競技スポーツにおける競技力向上だけが私たちの学問の目的ではありません。広い意味での「福祉」を視野に入れ、研究の意義を見通してみてください。健康の維持増進だけを視野に入れると、大変むなしい結果が待っているからです。健康に良い運動を適切に処方していても、やがて健康体は衰え、死へと向かうのが人間の定めだからです。だから私たちは人間は一日一日を充実して生きることを大切にし、スポーツをとおし充実した時間を提供することが保証できたのかどうかを、絶えず考えてこそ、私たちの学問は人間のための学問になり得るはずです。

最後にスポーツは広い意味での「福祉」である、ことを念頭に入れて熟慮に熟慮をかさねられることを皆さんにお願いして、祝辞といたします。

平成二十八年四月三日

日本体育大学

学長 谷釜 了正